

## アオリイカ釣り

海の安全推進アドバイザー 小野信昭

アオリイカは透明で細長い軟甲を持つツツイカ目のグループに属し、胴体の全長にわたって半円形のヒレ(エンペラ)があるのが特徴です。分布域は暖流の流れる沿岸に生息し、太平洋側では鹿島灘が北限で、日本海側では青森まで生息しています。春先から夏までの時期が水深 5~20 メートルに分布し、秋になると水深 20~40 メートルと分布する水深がやや深くなります。地形的には岩礁帯やゴロタ石が砂地と接する境目付近で、海藻が生えている場所が狙い目となります。



ティップラン釣法でゲットしたアオリイカ



アオリイカの握り寿司、絶品です

餌木と呼ばれる和製ルアーを使って狙うのが主流となっており、ボートフィッシングでは“ティップラン”と呼ばれる釣法が近年大人気となっています。この釣法はボートが流れる方向とは逆側に餌木を降下させ、着底したら幅の短いシャクリを数回入れ餌木に動きを与え、次に糸のテンションを維持することで餌木を安定させアオリイカに餌木を抱く間を 10 秒間ほど作ります。イカが餌木を抱くと竿先に変化が現れるので即アワセます。竿先に変化がなければ一連のアクションを繰り返します。

この釣法では繊細なアタリを捉えるため、そして広範囲に探るためにもボートはゆっくり、一定の速さで流れるのが理想であり、風と潮に任せてボートを流すいわゆる“ドテラ流し”がティップラン釣法に適したボートコントロールだとされています。

ドテラ流しでは船が流れていく方向とは違う方へ船首が向いたままの姿勢で流れるのが一般的で、ティップラン釣法では流れていく方向とは逆側の片舷にのみ釣り人が並んで釣ることになります。(下図参照)

釣り船でもプレジャーボートでもドテラ流しを行うと、釣り人や船長は仕掛けが入っている方向を注目し、流れていく方向への見張りが疎かになりがちですが、安全面からも常に全方向への見張りを励行する必要があります。



ドテラ流しで片舷に並んでティップラン釣法を実施中

また、見張りの励行の話から少しそれますが、先日、私自身が体験したアオリイカ狙いでティップラン釣法時におけるドテラ流しのマナーについても紹介したいと思います。

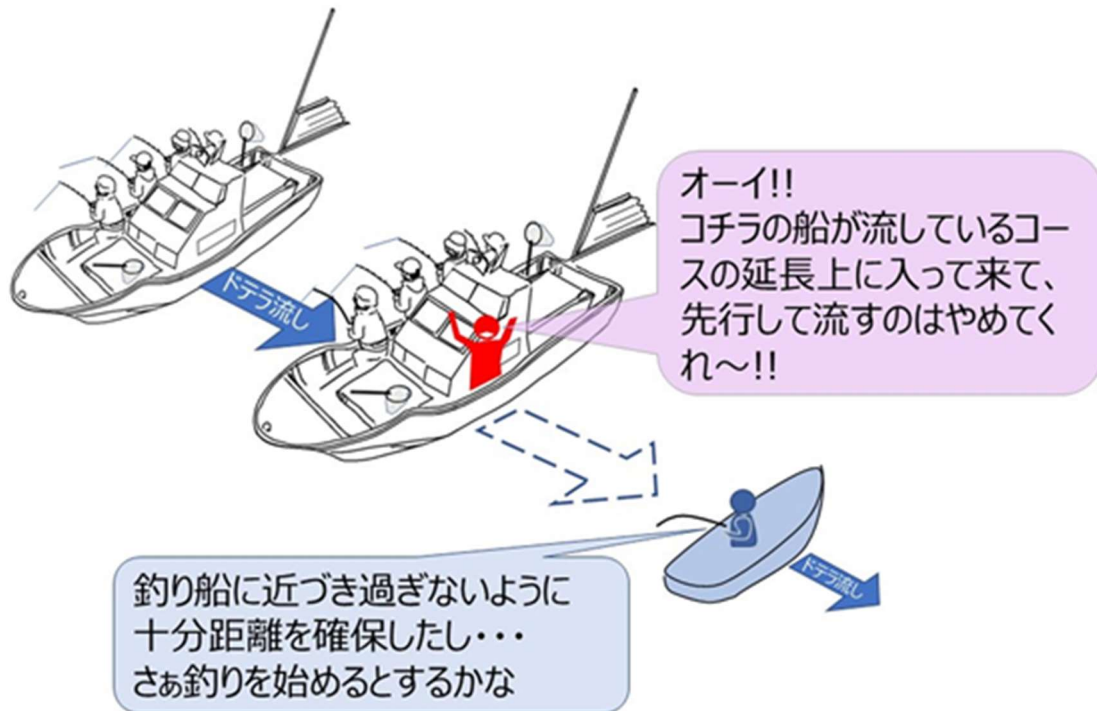
釣り場に到着すると既に先着の釣り船が陣取っていたので、少し離れたところで私自身もティップラン釣法をスタートさせました。

しばらくするとその釣り船が寄ってきて、「オーイ!! コチラの船が流しているコースの延長上に後から入って来て、先行して流すのはやめてくれないかな〜!!」と注意を受けました。

私は釣り船に近づき過ぎると迷惑をかけると思い少し離れた位置からドテラ流しをスタートさせたのですが、問題となったのは釣り船との距離ではなく、私のボートが陣取った場所でした。

ドテラ流しのティップラン釣法では安全面からも流すコース上に他船が存在して欲しくない・・・のと、先行のボートが流した後を流すのでは釣果面でも不利となる・・・この両面から注意を受けました。

そこまで気が回らずに陣取ってしまった私に対し、釣り船の船長は理由を述べて説明してくれたことに感謝するとともに、共存していくためにもマナーを知ることの大切さを知ることができました。



他船が流しているコースの延長上への後からの進入はマナー違反となります